

リサーチ TODAY

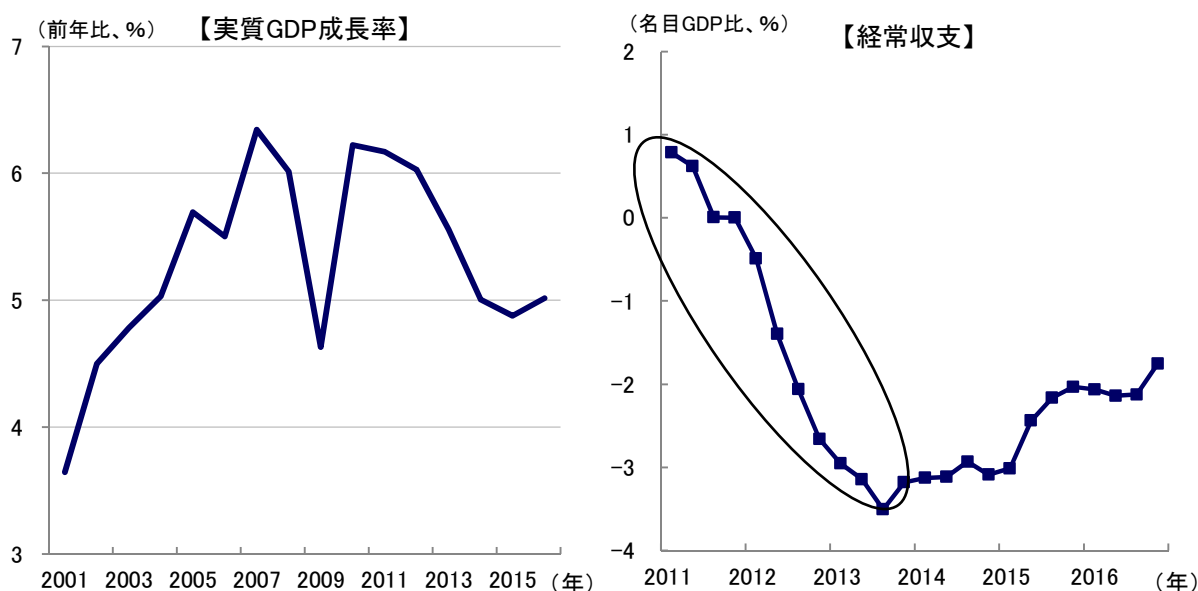
2017年 3月 22日

## アジア出張メモ: ASEAN 盟主インドネシアの改革は道半ば

常務執行役員 チーフエコノミスト 高田 創

筆者は3月初旬にシンガポール、インドネシア等への東南アジア出張を行い、海外市場参加者向けセミナーや現地でのヒアリングを行った。シンガポールの投資家は実際によく日本を訪問しており、日本への習熟度が高く、日本の株や不動産に投資しており、日本の最近の変化に関心が高かった。ここ数年は世界的な貿易の減少もあり、経済が停滞気味の状況が続いたため、今後の世界的な環境に大きな関心を寄せていた。一方、筆者にとってインドネシア出張は2011年以来6年振りであるが、当時は新興国ブームのピークの中かでインドネシアも注目されていた。その頃と比べ今は課題も明らかになったように感じた。インドネシアは、資源価格に大きな影響を受ける。今後、資源の依存に頼らない発展モデルを構築できるかが課題になる。下記の図表は、インドネシアの実質GDP成長率の推移を示すが、資源ブームにより2000年代後半から2012年頃に経済成長率と経常収支がピークをつけたが、2010年代半ばには成長率が鈍化、経常収支が赤字という状況にある。今日のインドネシアが抱える課題としては、①インフラの未整備、②各種手続き面での煩雑さ、③労働問題(人件費の高騰)が挙げられる<sup>1</sup>。筆者もジャカルタの空港に着いて中心地まで2時間の交通渋滞にあったが、現地の人からみれば「その程度ならまだいい方」との言葉に驚いた。

■図表: インドネシアの実質GDP成長率と経常収支推移

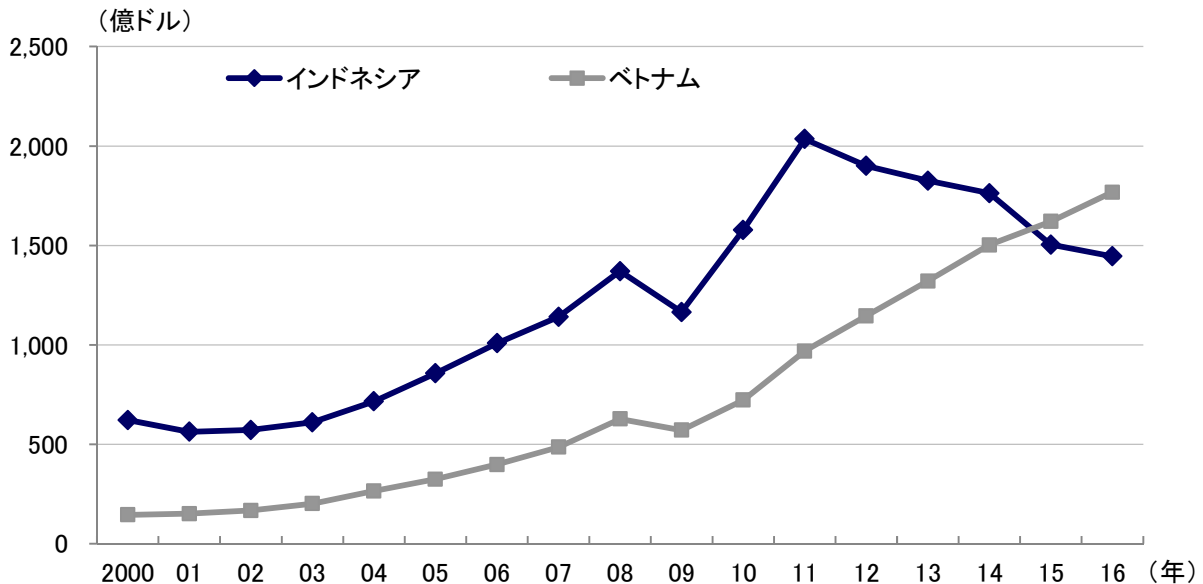


(注) 過去4四半期平均。

(資料) インドネシア中央統計局よりみずほ総合研究所作成 (資料) インドネシア中央銀行、インドネシア中央統計局より、みずほ総合研究所作成

このような課題のなか、最近インドネシアと競合するベトナムが急速に台頭する状況にジョコ大統領も問題意識を示すに至っている。下記の図表はインドネシアとベトナムの輸出推移を示すが、ベトナムは広域FTAをバネに国内改革を行うことで競争力を高め、輸出金額でインドネシアを逆転するまでに至っている<sup>2</sup>。

■図表：インドネシア・ベトナムの輸出推移



(資料) インドネシアおよびベトナム通関統計よりみずほ総合研究所作成

下記の図表は世界のビジネスの行いやすさのランキングだが、インドネシアは189か国・地域中109位に止まっており、依然 ASEAN のなかでは低水準である。投資誘致に意欲的なジョコ大統領は2014年10月の就任以来、投資環境上の課題解決に向けた取り組みを進めてきたが、改革はまだ道半ばで、ベトナム等其他のアジア諸国対比で改善の余地は大きい。インドネシアはGDPが0.9兆ドル、人口も2.6億人とASEAN地域最大であり、ASEAN本部も置かれる地域盟主の立場にある。ただし、今回の出張でインドネシアが潜在力を活かすには課題も多いと感じた。2010年前後をピークとした資源ブームに主導された内需拡大に今後は頼れないことから、新たな発展モデルを作るべく、インフラ投資等に向けたジョコ政権のかじ取りが改めて重要になる。

■図表：世界のビジネスの行いやすさ

順位	国
1	シンガポール
18	マレーシア
49	タイ
84	ブルネイ
90	ベトナム
103	フィリピン
<b>109</b>	<b>インドネシア</b>
127	カンボジア
134	ラオス
167	ミャンマー

インドネシアの項目別順位	
起業	119位
建設許可	12位
電力使用	108位
動産登録	58位
融資アクセス	78位
投資家保護	122位
納税	168位
契約履行	74位
貿易	99位
破産対処	123位

(注) ASEAN 諸国を抽出。網掛はインドネシアが100位以下である項目。

(資料) 世界銀行「Doing Business」(2016)よりみずほ総合研究所作成

1 菊池しのぶ「任期折返しを迎えるインドネシア現政権の改革は道半ば」(みずほ総合研究所『みずほインサイト』2017年2月14日)

2 酒向浩二「インドネシア TPP 参加の本気度」(みずほ総合研究所『みずほインサイト』2016年4月4日)

当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。